

- 4・5面…水害に備えて 事前に確認しましょう
- 8面…東京都知事選挙の 期日前投票が始まります

## 水害は事前の準備が肝心

確認しよう 水害が起こる前にできること

大型台風等で荒川が氾濫した場合、区内の大部分が長期間浸水すると想定されています。水害は、事前の情報収集や早めの避難によって身を守ることができる災害です。

日ごろから、避難するタイミングや避難場所・避難方法を確認し、水害に備えましょう。  
【問合せ】防災課防災管理係 ☎内線492

5.0m

3.0m

荒川が氾濫したときは、ゆいの森あらかわは最大5mも浸水する可能性があるんだ。家の周りも確認してみよう。

### ハザードマップ等で自宅周辺の浸水想定を確認しよう

ハザードマップ「荒川区防災地図(水害版)」や「荒川区防災アプリ」で、浸水の深さや災害時にとるべき行動等を確認できます。

#### ハザードマップの配布場所

区役所3階防災課、各区民事務所、荒川区ホームページ

#### 浸水深シールも避難計画の参考に

浸水する地域の電柱や区の施設に、浸水時の深さを表示する「浸水深シール」を貼っています。避難計画の参考にしてください。



0.5m

4・5面で、水害時の避難方法等を紹介します

### ▶水害から身を守るために

近年、日本各地において、大型の台風や線状降水帯の発生により、人々の生命を脅かすような洪水や土砂災害等が毎年のように発生しています。昨年6月には区内においても、台風の接近に伴う集中豪雨により、土砂災害や洪水の危険性が高まりました。区では、今年1月に発生した能登半島地震をはじめ、過去の災害における教訓等も踏まえ、これまで以上の災害時の体制強化を図るため、「荒川区地域防災計画」の修正を進めています。

水害では、区民一人ひとりが、あらかじめ水害に関する知識を正しく身につけて、適切な避難行動をとることが大変重要です。このため、事前の備えとして、浸水想定等を記載したハザードマップ「荒川区防災地図(水害版)」や「荒川区防災アプリ」で自宅の浸水の深さや避難場所を確認しておくとともに、東京マイ・タイムラインを活用して、災害時のご自身の行動計画を作成しておきましょう。また、一定期間自宅にとどまる場合も想定し、各家庭で7日分の食料等必要に応じた備蓄もしておきましょう。

区は、今後とも関係機関と連携し、区民の皆様と命と財産を守る対策を強力に推進して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



荒川区長  
にしがわ たいいちろう  
西川 太一郎